

【現状】

- ① 近年、ソフトウェア業やデジタルコンテンツ業(コールセンター・バックオフィス)等のIT関連企業の立地促進に重点的に取り組んでおり、実績を上げている。
- ② 市内にも中小IT企業が集積しており、大手企業からの受託開発案件で安定した実績がある。
- ③ 東北大学やIT系専門学校等の高度教育機関が集中しており、就学を機に東北各地から優秀な若手人材が流入している。

【課題】

- ① 市内IT企業の多くは、他社からの業務システム受託開発を主なビジネスとしている。
⇒2020年までに大規模な業務システム開発等はほぼ完了すると言われており、今後はIoTやAI等の先端技術を活用した新たなサービスを開発・展開する必要がある。
- ② IT関連業務に従事する人材は2030年に59万人が不足すると言われており、また、①のような新たなニーズに対応できる高度IT人材は首都圏に集中し、地方の人材不足は今後更に進むものと考えられる。
⇒市内IT企業の多くは中小企業であり、人材確保や社員教育にける余力がない。
- ③ 首都圏企業が地方進出の動きを強めており、IT関連企業の誘致は他都市でも力を入れている。
⇒都市間競争が激化しており、このタイミングを逃すと乗り遅れる可能性が大。

【今後の方向性（案）】

- ① 市内IT企業と農林水産業やヘルスケア等異業種とのマッチング機会創出や、産学官金連携による開発サポートなど、新たなITビジネス創出を支援するとともに、IT導入による地元企業・産業の高度化を促進。
- ② 国内外の大手企業や大学等のネットワークを活用し、多様なオープンイノベーションを促進。
- ③ 学校関係者等と連携してIT人材を確保・育成するとともに、第四次産業革命に対応しうる高度IT人材を育成。
- ④ 地域経済にインパクトをもたらすようなIT関連企業の誘致・創業を更に促進。